

生駒市12月議会ニュース 2012年1月発行

# 市民派クラブ

第3号

- 角田 晃一
- 吉波 伸治
- 樋口 稔
- 有村 京子
- 西山 洋竜
- 山田 弘己

発行所 角田 晃一 〒630-0134 生駒市あすか野北2-3-7 TEL(0743)78-8151

生駒市民の皆様の声を真摯に受けとめ

## さらに改革の手を強めます



新年明けましておめでとうございます。皆様良いお年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて今年、平成24年、暦では壬辰(みずのえたつ)に当たります。壬は妊に通じ、辰は振、賑に通じますが、何れも繁栄を意味します。日本経済にとって今年が復興元年、景気回復の年となることを願っております。それには世界経済とりわけヨーロッパ経済の立ち直りが急がれます。我が国においては一日も早いデフレからの脱却、成長戦略の確立が望まれます。



### 新しい春のごあいさつ

平成24年1月 「市民派クラブ」一同

生駒駅前北口の再開発事業が順調に進んでいますが、新病院建設は今年が正念場だと考えております。是非予定通り平成26年春に開業出来るように頑張っております。また次世代にツケを回さない為にも改革の手を緩める訳にはいきません。議会における最大の課題は議員定数の削減です。引き続き取り組んでまいります。私たちが「市民派クラブ」は市民の皆様の声に真摯に受け止め、正しく行政及び議会に届けて参りますので今年も変わらぬご支援を頂きますように宜しくお願い申し上げます。

### 環境文教委員会

(樋口稔)

### 「生駒市暴力団排除条例の制定」と、「同条例施行に伴う関係条例の整備」に関する条例

12月14日



指定管理者募集要項で、資金の供給、便宜は、応募資格者としてを供与するなど、維持暴力団の構成員でないこと、暴力団の利益と与する法人、その他のなる活動をしないこと、団体でないことが定め

### 一般質問より

2011年12月議会



### 「災害対応策の整備」について

山田 弘己

今回は、昨年の6月議会にて実施した一般質問「災害対応策における防災対策の見直し等」に関連し、その後の進捗状況を含んだ現在の整備内容の確認を致しました。

### 「一人暮らしの高齢者の安否対策」と「高齢者の免許証返納支援制度」について

樋口 稔

生駒市では、一人暮らしの高齢者が現在2300人で今後毎年100人づつふえていくと聞いております。現在と今後増加していく高齢者に対して市はどのような施策を施行していくのか、また民生児童委員の仕事の内容と、一人暮らしでな

### 「学校給食の安全化」について

吉波 伸治

福島第一原子力発電所の事故以来、低年齢の子供や小中学生の内部被ばくの心配がある中、給食食材の放射性物質検査について、次の質問を行ないました。

また関係条例の整備に関する条例では、生涯学習施設、公民館、市民ホール、芸術会館、体躯施設、コミュニティセンター、公園、他の公共施設の利用も許可しないというものが、提案時に「暴力団等の介入排除に関する合意書」により生駒警察署への欠格事項に該当するか否かを照会します。

金融機関、商店街が各種のサービスをを行い、運転免許証を返納した高齢者の利便を図り、中心市街地への来場者を増やし、経済の活性化を図ると共に、高齢者による交通事故を減少させて、安心・安全な街づくりをすることです。警視庁も運転免許証に代わる「運転経歴証明書」を本人確認書類として免許証と同等の効力を持たせるための関係法令を改正する方針を決めました。他の自治体でもこの制度は増えています。市でも今後考えてはどうですかと提案いたしました。

# 様々な課題に取り組んでいます



## ●議会改革特別委員会 「7項目の事項を 最初の取り組みテーマに」

(角田、山田弘、西山)

本委員会は議会の承認を経て昨年6月に設立されました。設立目的として、議会における①広報・広聴および市民参加の実施②適切な行政監視の実行③議会運営の改善施策の立案を終了後、新たなテーマを随時追加してまいります。①本委員会における審査項目の即時的情報公開②議会報告会の実施③議会図書機能の充実化④行政の基本計画議案の議会承認(議決事件)化⑤決算審査方法の見直し⑥議

会への市民参加の議員政務調査費の使途明確化。本委員会の設置期限は、平成25年3月末日迄です。市民に開かれた議会を目指すべく取り組みを市民派クラブは真摯に実行していく所存です。

議員定数を本特別委員会の審査項目にすべきという私たちの主張に関連させて、議員定数の削減は議会改革ではない、と批判される議員がおりますが、議員全体の力量を高めることで定数を減らしても機能の維持・向上が可能な議会に変えていく、また、定数を適切な数に減らすと、その財源の好転に資する施策を実現できる議会に変えていく、というのも大きな議会改革であり、議員定数削減に反対することは議会改革を否定することです。また、議員定数を本特別委員会の審査項目に上程すれば、定数問題が議論の場に供することができるといえます。

を適切な数に減らすと、その財源の好転に資する施策を実現できる議会に変えていく、というのも大きな議会改革であり、議員定数削減に反対することは議会改革を否定することです。また、議員定数を本特別委員会の審査項目に上程すれば、定数問題が議論の場に供することができるといえます。

## ●病院事業特別委員会 「徳州会病院への視察を 早急に取り組むべき」

(有村、樋口稔)

前号(昨年10月発行)の『市民派クラブ』が忘れられませんが、一日も早い復興を願うばかりです。は復旧・復興施策を現実の被災地を見学することと併せて、実利的な災害対策を研修しました。陸前高田市では①事前に想定していた状況を逃かさない規模の地震と津波であったため、既存の災害対策では対応がまわらなかつたこと②災害対策本部が設置されるべき市庁舎そのものが全壊し、住民データ等の情報が滅失したこと、が迅速な災害復旧を困難にさせた要因と捉えていました。この全壊した市庁舎を我々に案内して下さった担当職員は、瓦礫の完全処理にはあと3年位はかかるので

設置に反対いたしました。その理由は、すでに「新病院整備専門委員会」や「病院事業推進委員会」で十分に

審査されてきており、今後、審査する必要が生じたときは、病院事業を所管する「市民福祉委員会」で審査でき、新たに必要のない本特別委員会を設置することは病院開設準備の遅延要素にこそなれ、それを促進することにならないからです。事実、設置された本事業特別委員会には、11月の委員会では現在の基本協定書案に、指定管理者側に瑕疵があった場合の損害賠償について詳細な事項を盛り込むかどうか審査しました。基本協定書の38条々法等によって賠償請求は可能であるとの意見もありましたが、先ずは指定管理者である徳洲会と暴力団の関係について生駒警察署への照会を市に求め、その照会結果を見てから再度協定書案を検討することになりました。また新病院

## ●企画総務委員会 「災害時の後方支援政策および 復旧・復興政策について (視察報告)」

10月20日～21日

企画総務委員会では標記のテーマを調査対象に取り上げ、昨年10月20日～21日に東日本大震災の被災地区である岩手県遠野市と陸前高田市を視察して参りました。

視察の目的として、遠野市では被災地区での後方支援策および地域支援ネットワーク(遠野まほろネット)の活動状況を研修しま

した。視察の中で、遠野市が実益性の高い後方支援策を実行できた主な理由として、①災害に対する市長の強い認識が平常時からあったこと②広範囲で実効性の高い防災訓練を実施していたこと③災害に備えた施設の整備を着実に進めてきたこと、があげられました。また、陸前高田市で

## ●都市建設委員会 「移動しやすい人にやさしい 町づくり整備について」 (視察報告)」

11月17日～11月18日

移動しやすい人にやさしい町づくり整備について」をテーマ調査として、去年11月17日～11月18日に愛知県小牧市と安城市を視察しました。

の空洞化、環境負荷の増大などに対応するため、早い時期からコミュニティバス事業に取り組み、バス道の台数の多さや、広範な運行ルートなど、生駒市をはるかにしのぐものであります。

また安城市では「エコサイクルシティ」を標榜して、市内を貫く立派な自転車専用道路が整備され、レンタサイクルや駐輪場、自転車購入補助事業も充実しています。生駒

田市では観光コンベンション協会の主催によりポランティアスタツフを募って地域のガイドツアーを行うといった「体験型観光」がユニークでした。それぞれ人口規模や特徴の違いがあるとは言え、お金をかけずに限られた観光資源をうまく利用しながら独自の工夫で地域活性化

## ●市民福祉委員会 「観光施策について」 (視察報告)」

(吉波、西山)

11月1日～11月2日

市民福祉委員会では、駒市とよく似てどちらもあり観光資源に恵まれない住宅都市です。中でも①練馬区ではマップを用いて来訪者に地域のスイーツや名物を紹介する「まちあるき観光」、②町

本特別委員会では11月と12月に開催されました。11月の委員会では現在の基本協定書案に、指定管理者側に瑕疵があった場合の損害賠償について詳細な事項を盛り込むかどうか審査しました。基本協定書の38条々法等によって賠償請求は可能であるとの意見もありましたが、先ずは指定管理者である徳洲会と暴力団の関係について生駒警察署への照会を市に求め、その照会結果を見てから再度協定書案を検討することになりました。また新病院



## あとかぎ

年末には大震災や原発事故関連の番組が幾つか放映されました。それらを見ながらあらためて災害や事故の大きさにつくづく思いました。未だ震災復興や原発事故収束もままならず、重い課題を背負ったままの年明けとなりました。新しい年を迎えても、新たな大震災やそれに伴う原発事故の脅威は去らず、私たちは本当に危うい世界を生活しているのだなと思います。今日一日、無事で普通の暮らしができることを感謝を忘れず生きていきたいものです。